

図書館だより

都城工業
高等専門学校
図書館

No. 71

JULY 2012



「韓国 アンドン イチョンドンソップルサン 安東の泥川洞石仏像」

特集1

こんな本に出会った

特集2

留学報告

都城工業高等専門学校

Miyakonojo National College of Technology

- 1. 時に及びて^{まさ}当に勉励すべし 図書館長：望月高明……………1
- 2. ノルウェーから見た日本 電気情報工学科：剣田貫治……………3

特集1 こんな本に出会った

- 3. 知識 + 体験 = 創造力 建築学科：杉本弘文……………4
- 4. 本の魅力 一般科目：向江頼士……………5

特集2 留学報告

- 5. 内地留学を終えて 物質工学科：金澤亮一……………6
- 6. 内地留学を終えて 一般科目：若生潤一……………7

講演会

- 7. 講演「都城の歴史と都城島津家」 講師：山下真一（都城島津邸）……………8

- 8. 図書委員長と副委員長になつての抱負
委員長：浅野大樹（5年機械工学科）……………10
副委員長：宮川麻有（4年物質工学科）……………10

- 9. 平成24年度学生図書委員……………10
- 10. 平成24年度図書館カレンダー……………11
- 11. 新入生オリエンテーション実施……………12
- 12. 図書館からのお知らせ……………12

夏季休業期間中の長期貸出について
夏季休業期間中の開館について
編集後記



●表紙「韓国 ^{アンドン イチョンドンソップルサン} 安東の泥川洞石仏像」

韓国・慶尚北道・安東市の太華山の山麓にある巨大な磨崖石仏像である。

花崗岩の崖の岩面に、仏の胴体（高さ約10m）を彫刻し、その上に別に作った頭部（高さ2.43m）を載せている。仏の頭部を別に製作し、あとから載せる様式は、高麗時代に広く用いられた方法で、彫刻技法からみて11世紀ごろの製作と推定されている。

慈しみ深く細くのびた目と厚い唇、穏やかな微笑が、土俗的な感じを漂わせている。頭部の後ろが一部損傷しているが、全体的に保存状態は良好で、宝物第115号に指定されている。

撮影 図書館長（一般科目）望月高明

時に及びて^{まさ}当に勉励すべし

図書館長 望月高明

私は既に年を取っている。そのせいかは知らぬが、近年は毎年のように花の季節には近隣のそこここを訪れる。

春の先鋒は梅花^しに如くはない。高千穂寮の南門の道路沿いの空き地に梅の木がある。宮崎は冬でも比較的温暖なこともあって、冬と春との境目が余り際立っては感じられない。それでも2月の通勤途中の一日、梅の木に2、3輪の白い花を見出すとともに、私の中でその一瞬に“春”が一気に結晶する。ああ、春が来た。白い花は日を追うごとに数を増やしていき、凜とした気品のあるその姿は通勤途中の私の心を楽しませてくれる。

その梅の木が満開を迎えたころ、3月初めのひと日、高岡に月知梅を訪ねた。樹齢400年の巨樹である。今から200年前（安永・天明年間）は1株であったものが、その後枝が伏して四方に繁殖し、現在の60株になったという。しかし、今年は開花時期がふだんよりも遅れ、花はあちらこちらにしか見えず、ずい分蕾が多く目立った。それでも、あと10日もするとその蕾が一斉に開花して辺り一面に^{かぐわ}芳しい梅の花の香りを漂わせるであろう。

3月から4月にかけて西都に菜の花と桜を見に行くのは、今や私の年中行事となっている。西都は言わずと知れた古墳群の街である。百基余りの古墳が点在する台地はよく整備されていて、その開けた空間はいつ訪れても心和むものがある。4月の初めに西都で菜の花と桜を見た帰途、国富町にある「大塚の一本桜」を初めて訪れた。カーナビが目的地近くまで来たことを告げたため、車窓からキョロキョロ搜したが、やがてすぐに目標物を見出すことができた。その木は鬱然と森をなして、その周囲に幾人かの人を迎えて立っていた。私はその桜の木は山中にあるものと勝手に思い込んでいたので、意外にも田園風景の中に佇んでいたの^でちょっと驚いた。樹齢は100年から150年ぐらいという。150年という、恐らくペリーが来航（1853年）して間もなく、この木はこの地に根を下ろしたのであろう。山桜は普通の桜より開花時季が早いため、私が訪れたときは花は既に終わりに近づいていて、周囲にはおびただしい花びらが散乱していた。根元には1673年建立という^{こうしんとう}庚申塔があり、それを抱きかかえるようにして巨大な根が地を這っている。アマチュアのカメラマン(?)と覚しき人が、花の終わりを迎えて若葉

の多くなった古木を様々な角度から時間をかけて丹念に撮っていたが、それだけこの樹が彼の心を魅するものがあるのであろう。

「一心行の桜」の名前は何時ごろ知ったのか、記憶が判然としない。しかし、桜の時節ともなると必ずといっていいほどニュースなどで報じられること、また、「一心行」という多分に仏教語を連想させる名前によって、いつしか私の記憶に定着したものと思われる。私は6月に所用のため阿蘇に行った折、初めて一心行の桜と対面することができた。6月であるから花の季節はとくに終わり、桜の樹全体は緑の葉で覆われていた。桜の根を痛めないための配慮なのであろう。巨木をぐるりと囲むように栈道が設けられている。今年もまた花の時節には多くの人が花を目当てに集まってきて、ずい分賑わったであろう。しかし、その日桜の木を訪うたのは、木の実を求めて数羽の野鳥と、2つ3つの白蝶と、そして私だけであった。南阿蘇の五獄の麓に立つ巨樹は本来の静寂に帰していた。樹齢は400年という。私は飽かず桜の木を眺めていたい衝動に駆られて、しばらくその場に佇んでいた。一体、その木の何がこんなにも私の心を魅するのであろうか。

花の前に立つと、改めてその美しさに見惚れるとともに、今更のように己が心の卑小さを思う。それは幼な児の無垢な瞳に見つめられると、自分の心底までが見透かされているかのように。梅の花、桜の花を見て美しいと感ずるのは、私の心とその花との間に呼応するものがあるからであろう。それとともに思い当たることは、私の眼前の花々は見る者に深い慰藉を与えるだけで、自らは何も求めるところが無いということだ。われわれ人間はそれこそそのべつ幕なしに相手に対して何かを求めているのではないだろうか。このことは、人間が本来空虚な存在であること、自己に充足したものを^持っていないことを意味していないだろうか。

思うに人間と植物とは根本的にその存在様式を異にしている。人間は太古の昔に食料を求めて各地をめぐった記憶を留めている名残りののか、一瞬たりともその場に止どまることがない。退屈を恐れるかのように、常に忙しく活動を止めようとはしない。一方、植物はその土地に植えつけられると、動物のように自力で他処に移動することができぬ。文字通りその土地が終の住処となる。樹木の場合だと、10年、50年、更には100年、200年、500年……と実に辛抱強くその場に

立ち続ける。そして、ゆっくりゆっくりとその環境に適応して、ついには自分の力でその環境を変えていく。荒々しく地表を這っている巨大な樹根は、樹木の日々の激しい戦いの跡を如実に物語っている。

ところで、私は巨樹の前に立つと、常に名状し難いある種の畏敬の念を禁じ得ない。それは人を固く拒むという峻厳なものとは異なるけれど、われわれが馴れ馴れしく近附くのをためらわせるような概がある。それは正しく「樹格」（樹木について「人格」と表現するのは変だから、このように表現する）というに相応しい。

私は宋明時代の儒学思想（朱子学・陽明学）を研究している。南宋時代の朱子（1130～1200）によって樹立された教学、いわゆる朱子学の成立は、東アジア世界における世界史的な事件だといわれる。朱子学の影響するところは単に中国のみに止どまらず、朝鮮、そして我が国にも及んでいて、それぞれの国において独自の個性に坦われて複雑な展開を遂げている。朱子学の展開史においてその名前を列ねている学者たちは、いずれをとっても思想上の巨人といえるような人々である。楠本正継博士はある論文の中で、「中国の思想は人格の表現である場合、最もその力を感じしめる」と喝破された。例えば宋学の開祖といわれる周濂溪（1017～1073）は、官吏としては余りばっとならない地位に終わった人である。方々の下級官吏を転々として、せいぜい地方の課長級止まりであった。しかし、この人の世にも稀なる高潔な人格は、同時代の人から「茂叔人品甚だ高く、胸中灑落たること光風霽月の如し」と称せられた。また、朱子の師李延平（1093～1163）は、もし朱子とその門から出て表彰しなかったならば、ほとんど無名で終わったと思われる。その日常を後に朱子は「李延平は書を著さず、文を作らず、頽然として一田夫野老の若し」と形容している。しかし、清貧な生活に甘んじながら多年にわたる鍛練は、同時代の講友から「愿仲、氷壺秋月の瑩徹にして瑕無きが如し」と称せられるような清澄な人格をつくり上げた。それにしても濂溪や延平を形容したこれらの表現は、一度聞いたならばもはや永久に耳底を去ることがないような鮮やかな印象を与えないであろうか。そして、学問、あるいは学問することによってかかる人格をつくり出すことができるというのが、宋人の牢固とした信念であった。

これに関連して、もう1つ別の話題をあげよう。幕末維新期の陽明学者池田草庵（1813～1878）は、講友の吉村秋陽の養嗣子吉村斐山から、次のごとき報知を受けた。その報知というのは、月田蒙斎門下の楠本松陽が、崎門学者の広島藩儒金子霜山の門に入塾するつ

もりで来遊したが、時節柄滞在することが難しく早々に帰郷した。その時、平戸藩の書生が秋陽の塾に遊学していたので、松陽は両三度も訪問したにもかかわらず、吉村父子には面会することがなかった。斐山は松陽のかかる所業を「門戸之見ヲ建テ候者ハ如此乎と付浩歎候」と締めくくっている。次にあげるのは草庵の返書であるが、それは草庵の学問に対する識見を窺うに足る。

佐々謙三郎兄弟之者、貴地金子氏へ從遊之積リニテ罷越候処不都合ニテ直様引返申候由。其砌貴塾へ同藩之者留寓、因而貴家へ罷出候得とも貴兄御父子へ御面会不申上候由。扱々ヲカシキ事ニ存入候。其様之セマキ事ニテハ氣象局促大識見ハ開ケ申間敷イカヌ事ニ存入申候。学問ハ天下古今公共底之物事、襟懷狹隘之者恐クハ看透不到と存候。（『幕末維新陽明学者書簡集』池田草庵書簡、傍点は望月）

佐々謙三郎は、楠本碩水のこと。佐々氏の養子となったが、後に本姓に復した。上の草庵の文には、楠本博士が指摘された中国の学問が人格の表現であるということが、実に懇切に説かれている。草庵の言は、学問とか学問するということにおいて、われわれに三思を要求するであろう。そして、かかる自覚は草庵に止どまらないで、宋明学を一貫して通底している基調であった。

このように、中国の学問は人格の表現であった。私は平生窃かに宋明の学問を研究していると自負している。しかし、わが身を振り返ってみるとどうだろう。自らそこに見出すのは、信も薄く学も浅く、人間的魅力に乏しいガリガリに痩せた貧相な人間に他ならない。道徳や倫理の立場が、厳しくその「資格」を問うものであるように、宋明の学問についても同様のことがいえるのかも知れない。私は己の乏しさに堪えながらこれからも歩みを進めるより他はないのだ。

標題の「時に及びて当に勉強すべし」は、東晋の自然詩人陶淵明の「雑詩十二首 其一」に由来する。人生は短いから、時機を逃さず無理を押しでも歓楽を尽くすべきであるというのが元来の意味。ところで、この語はこの後に続く「歳月は人を待たず」とともに、従来「勸学」の意味で人口に膾炙している。後者の意味においては、私は既に時機を失してしまった。せめて小文の読者である学生諸君は、若いうちに学問に精励して、あたら貴重な時期を空費しないようにしてもらいたい。



ノルウェーから見た日本

電気情報工学科 剣田 貫 治

グローバルな考えが必要とされる現在、海外での生活体験や外部から客観的に日本を眺めることは国際交流を深めるうえで是非必要かと思いますが、現実にはそういう機会はなかなかありません。そんな中、運よく15年前文部科学省の在外研究員として海外（ノルウェー）で研究生活をおくる機会を与えて頂き貴重な体験をすることが出来ました。ここでは、研究以外の生活体験を通して感じた事柄を二三紹介したいと思いません。

留学先は、ノルウェーの北極圏に近いトロンハイムにあるノルウェー科学技術大学でした。丁度私が訪れた年（1997年）は、トロンハイム市制1000周年に当り、町ではいろんな記念行事が開かれていました。気候の最も良い6月までは記念行事も多く観光客も数多く訪れていました。この記念行事の影響で、予定していた宿舎が6月中空かず、私は大学でお世話になったSkularrud教授の自宅で、一ヶ月の下宿生活を余儀なくされました。これが幸いし、この一ヶ月は私にとってはいい勉強になり貴重な体験でした。朝夕、教授夫妻と食事を共にさせてもらいましたが、その場で日常生活や文化・歴史について色々と教えて頂き、その後の一人での生活に非常に役立ちました。この一ヶ月の下宿生活で、最も大きなカルチャーショックを受けたのは、教授夫妻の家事分担の平等性です。それまで家事はほとんど妻任せにしていた私にとって、夫が買い物と食事の賄いをし、妻が食事の後片付けをするという家事分担は大変ショックでした。奥様も大学教授でしたので、最初は特別なのかと思っていましたが、その後の職場や町での体験から、そうではないことが理解できました。この国では、男女同権が言葉通り浸透していたのです。日本では、女性の社会的地位がまだまだ低く、男女共同参画という名の下に女性の社会進出を国が働きかけているレベルです。日本との違いを痛感いたしました。

トロンハイムに住む日本人は、留学生や日本の在外研究員を含めて10名程度で、日常町で見かけることはありませんでした。中国人が開いているアジア人目当ての食料品店が1軒ありましたが、そこで会うのはほとんどが中国人でした。そんな中、乗用車の中で目立っていたのが日本車です。トヨタ、ホンダ、ニッサンの車が数多く走っていました。家電では、ソニーやパナソニックの製品がブランド品として店頭に並べられてい

ました。北欧の北極圏に近い町で、このような数多くの日本の製品に出会うとは思いませんでした。この光景を見て、当時の日本の経済力と技術力を目の当りに見せ付けられる思いでした。

日本の技術力を、日本ではそんなに意識することはありません。トロンハイムの銀行でATMを利用したとき、何回かカードを飲み込まれ対応に四苦八苦しましたが、このときは、日本の技術力の高さを思い知らされました。日本では絶対ありえないことです。

ノルウェーで最初に感じたのは、労働時間が短いことです。9時に始まり15時から16時には終わりますから、昼の1時間を差し引くと労働時間は5、6時間です。商店街も開店時間は同じようなものです。6、7月は日の出が3時で日の入りが23時と白夜に近い状態です。このような時期に「午後の3、4時に仕事を終わるとは何事か」と日本では怒られそうですが、これがノルウェーの労働スタイルです。このスタイルがどうか理解できるようになったのは、滞在が終わりに近づく2月末でした。冬は夏の反対で日照時間が極端に短くなるのです。12、1月は日の出が11時で日の入りが2、3時、それも太陽は南の地平線を這うように移動します。冬は天候も悪く、ほとんど太陽を見ることはないぐらいです。このような暗くて寒い冬を経験して初めて、夏の労働スタイルが理解できたのです。

以上、ノルウェーでの生活体験を通して感じえた日本の技術力やそれぞれの国民性等について紹介しました。学生の皆さん、21世紀は貴方達の時代です。グローバル化はさらに進むでしょう。機会があったら積極的に海外に赴き、見識を高めて下さい。日本の誇りある技術者として活躍されることを期待します。



特集1 こんな本に出会った

知識 + 体験 = 創造力

建築学科 杉本 弘文

本年4月より都城高専建築学科に着任致しました杉本弘文です。建築やまちづくりに関する専門書や雑誌を除けば、「趣味は読書です」と胸を張って言えるほど多くの書籍を読破してきたとは御世辞にも言えませんが、これまで私が本を読むことを通じて心掛けてきたことをこの場を借りて少しだけお話ししたいと思います。

大学や高専等、高等教育機関の図書館は一般の中学校や高等学校の図書館に比べて、皆さんが教養や専門知識を広げるための多くの本が揃っています。この整った環境は皆さんが「学びたい」「知りたい」という好奇心や探究心を持ちさえすれば、多くの力になってくれる環境・場所だと思います。また、近年は急速に情報化が進み、あらゆる情報がインターネットを通じて簡単に入手できるようになってきていますが、これらはいわば情報発信者がまとめた一部の表面的な情報であり、必ずしも正しい情報であるとは限りません。与えられた課題研究やレポートに取り組む時、まずは情報の発信源である書籍や論文からはっきりした正しい知識や情報を得ることが重要です。そして、これから高専で多くのことを学び、専門知識を持つ工学技術者を目指す皆さんには、本を通じて得られた新しい知識・知見、情報と自分が今まで培ってきた知識や経験・体験を重ね合わせ、「自分ならこうする」「こうすればもっと面白くなるかも」等、想像を膨らませながら、将来多くの人々を楽しませたり、幸せにしたり、暮らしを豊かにしたりする新しい提案（創造）ができる人材に成長してくれることを切に願います。

著名な建築家であった故・宮脇檀氏が日本大学生産工学部の住宅設計を重点的に教える特設コースの主任教授に任命された際、このコースの学習方針として掲げた言葉に『眼を養い、手を練れ』（基はライブツィヒ工芸高等師範学校校訓）という言葉があります。本を通じて多くの知識を得ることももちろん大事ですが、多くの現場や現物に赴き、空間体験・経験を通して自分自身の眼でみて学び（眼を養い）、それを頭の中のみで考えるのではなく、手を動かし何度も試行錯

誤しながら（手を練り）、人々の生活に役立つ実践的な提案に結び付けることが、技術者としての使命であると思います。

「本を通じて知識を得て実物に興味湧いた」でも「体験を通じて知識を得たいと思った」でも構いません。勉強の仕方や知識・技術の得方のプロセスは人それぞれ、十人十色です。若い皆さんはスポンジのように色々な物を吸収し、知識を身につけ、様々なモノやコトを想像・創造する可能性に満ちています。自分流の本の楽しみ方、技術の学び方を見つけ、視野を広げると共に、人生を豊かにする本や人との仕合わせ（幸せ）があることを願っています。

推薦図書

●陰翳礼讃 / 谷崎潤一郎（中公文庫）

日本の伝統美を語る名随筆としてあまりにも有名な作品です。日本人の私達に何かしらの気付きを与えてくれるはずです。建築を学ぶ学生にもそうでない学生にも是非一読していただきたい本です。

●眼を養い、手を練れ / 宮脇檀住宅設計塾（彰国社）

難しい言葉が多用されている建築の本とは違い、建築初心者にも読みやすく、建築の面白みが十分に伝わってくる本です。



本の魅力

一般科目 向江 頼士

4月より都城高専で数学を担当します向江です。私は大学生のとき3年間ほど学生職員として、東京理科大学のある学科の図書室管理や、学科の図書関係の仕事を全て任されており、本に囲まれた生活をしていました。そんな私ですが、都城高専にきてから読書に関して驚いたことがあります。それは、朝のSHRを代行で担当したときに目にした光景で、みなさんが10分間熱心に読書をしていたことです。また、授業の間の休み時間も少しでも時間があれば読書に励んでいる生徒がたくさんいました。この学校は読書することが当たり前であることがとても素晴らしいと感じました。最近では、読書をする機会が減ってしまった私ですが、読書に関するエピソードを二つほど紹介したいと思います。

私が読書に熱中し始めたのは、高校を卒業してからです。特に、小説を中心に読んでおり、気に入った作家がいると本屋さんでその作家の本をまとめて購入していました。毎日、大学まで電車で1時間以上かかっていたので、とても充実した読書生活を送っていました。本を読むことは、自分の価値観を確立するための手助けになるのではないかと考えています。私が好きな写真家の一人である一ノ瀬泰造の伝記を読んだときに、「とにかく自分が好きだと思えることはとことんやりつづける」ということを教わりました。好きなことをとことん極めるという考えは今も変わりません。もし、一ノ瀬泰造という写真家の伝記を読んでいなかったら、今まで数学の研究を続けていなかった、もしくは数学の研究をしていなかったかもしれません。このように、様々な本と出会うことにより、自分の価値観を確立し、自分の進路を考えるときに参考になるのではないかと考えています。

次は、海外で経験した読書に関する話題です。2009年12月、私はオーストラリアで行われた数学の研究集会に参加しました。これまで、参加した海外の研究集会とは違い若手の研究者が多かったので、積極的に情報交換を行いました。研究集会中に仲良くなった若手研究者に、どのようにしたら英語が上達するのかを相談したところ、その研究者は「Haruki Murakamiの本を読んだらいいよ」とアドバイスしてくれました。つまり、英語の本をたくさん読みなさいということです。海外でも村上春樹さんの本がとても人気があるみたいです。この助言は他の国に行ったときにもまった

く同じことを言われたので、私は村上春樹さんの本を読むことにしました。英語が上達したかわかりませんが、読書をきっかけにいろんな人に話しかけることができ、自分の視野を広げることができたと思っています。

上に書いたように、読書することによるメリットは、人それぞれたくさんあると思います。みなさん、これからは読書に励んで自分を成長させていきましょう。

推薦図書

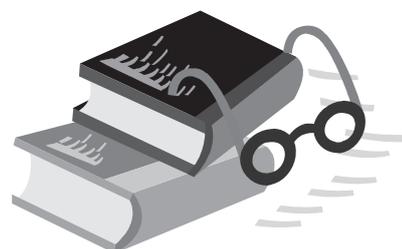
●「放浪の数学者エルデシュ」

ポール・ホフマン（平石律子訳）

「数学者ってどんな人？」って質問をされたとき、私は、数学者エルデシュについて話をするようにしています。睡眠時間以外の全ての時間を数学に費やし、また、自分の家を持たずに世界中の数学者を求めて旅をしているとても変わっている数学者です（もちろん日本にもやってきました）。この本は数学者エルデシュと彼を取り巻く数学者達についてのエピソードが書かれた本です。変わった数学者の姿を見ることができます。

●「詭弁論理学」 野崎 昭弘

友達と議論して言い負かされることはあるが、何か腑に落ちない場合を経験したことはありますか？この本では、強弁、詭弁のパターンを解説している本です。詭弁術の論理から、数学の世界で有名なパズルの問題などが紹介されており、どれも簡単に書かれているため、読みやすいと思います。この本を読んで友達同士で論理の問題を出し合ってはいかがでしょうか。



特集2 留学報告

内地留学を終えて

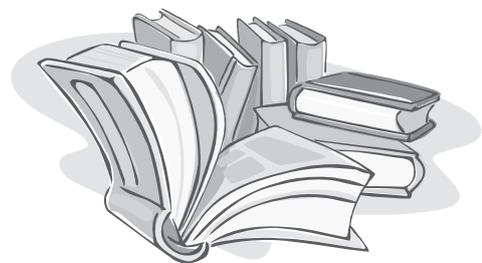
物質工学科 金澤 亮一

平成23年4月1日から平成24年1月31日までの日程で、東京農工大学工学部化学システム工学科および大学院工学府応用化学専攻 システム化学工学専修徳山研究室において研究に従事した。当初は10ヶ月の予定であったが1ヶ月半延長していただき3月16日までの日程となった。徳山研究室を主宰する徳山准教授は、私が広島大学工学研究科の博士課程の学生だった時代に助手の先生として研究室にこられた方で、共に重金属分離プロセスの開発に携わった間柄だった。今回、その縁で内地留学のお世話になることになった。徳山准教授は、私が研究を進めている感温性ゲルの工学的応用という分野で先鋭的な研究を行なっている人物であり、この分野での第一人者ともいえる。そのような研究室で約1年間研究に従事できたことにより、今後の研究活動への大きな糧とすることができた。主におこなった研究テーマは3つであった。「アニオンとカチオンを同時に共重合した両性イオン感温性ゲルの合成とBSA吸着への応用」、「単分散サブミクロンオーダー感温性ゲル微粒子の合成」「IPN共重合の発展による新規な転移挙動を持つ感温性ゲルの合成」である。これらを集中的に研究することにより、かなり多くの成果を得ることができた。

内地留学中の私生活について述べると、東京に向けて都城を出発したのは1年前の3月22日のことだった。あの東日本大震災から11日後のことだった。大震災の影響による物流の麻痺、買い占め等の問題で首都圏でも物資が不足し、原発事故の影響で電力が不足し、計画停電の実施が発表された最中での出発であった。東京に到着すると、予想通りスーパーやコンビニからは食品が消えていた。計画停電こそは幸運にも巡り合わせなかったが、毎日震度3以上の余震が複数回起き、

携帯電話の緊急地震速報が一日中鳴り続ける中での生活だった。電力が不足する夏場などは大幅な節電のために大学側が建物ごとに電力不使用日を設定するなどしたため、ほとんど実験を進められない日々が続いた。それでも多くの人が日常生活を送っていた。私自身も2度ほど休日を利用してボランティアで仙台や石巻に赴いたが、津波の被害は予想の遥か上をいっていた。研究、教育、技術、個人、団体、どのような形で良い、どんな遠回りでも良いからあの東北地方に何かできることがあるのか考える良い機会となった。

今回、多くの都城高専教職員の皆様の協力により、内地留学に行くことができ、研究だけでなくその他の面でも大変有意義で実り多い時間を過ごすことができた。心より感謝したいと思う。



内地留学を終えて

一般科目 若生潤

私は平成23年度のほぼ1年間、内地研究員として九州大学理学研究院物理学部門統計物理学研究室に滞在し、中西秀教授の指導のもとで研究活動を行いました。研究室には中西教授をはじめスタッフ2名、博士研究員2名、大学院生4名、学部生1名がいらっしゃいました。学生に戻ったつもりで研究に取り組んできました。今改めて振り返って、素晴らしい環境で1年を過ごせたことを幸いに思っています。

内地留学において取り組んだテーマは「粉粒体の斜面流」に関する問題でした。「粉粒体」とは、砂や米のような粒々の集合体のことを言います。このような粒々が斜面を流れているときに、その衝突の仕方によどのような法則性が表れるか、という課題に取り組みました。専門外の人からはよく「いったい何が面白くてそのような研究をするのか」と質問されます。それは当然の疑問と思います。今回は、限られた字数ではありますが、私の研究テーマについて、私が何を面白いと感じているかを書いてみようと思います。

身の回りの物質が原子という小さな構成要素からなることが人々に認識されるようになって約1世紀を経ました。現在ではこれら構成要素の従う運動規則はよく理解されており、科学技術を支える礎になっています。この構成要素がたくさん（十の二十数乗個）集まると、固体・液体・気体という異なる状態をとったり、電気を通したり通さなかったり、透明であったり不透明であったり、多様な性質を示します。たくさんある構成要素がそれぞれ運動規則に従って運動している様は、想像するとただごちゃごちゃしているだけなのですが、それを注意深く見ると、ある見方をしたときに、きれいな法則性が見えることがあります。それが「規則的に並ぶ」や「電気を通す」などの性質であったりするので。このように、多数の構成要素の集団が示す法則性について研究する分野を「統計物理学」といいます。

私は多くの構成要素による混沌の中に潜んでいる法

則性を見つけ出すことが、統計物理学の研究の面白さだと思っています。残念ながらほとんどの法則性とそれが見える理由が数学で表現されており、その力強さや柔軟性について、絵画の美しさを語るようには語るできません。

さて、私の今回の研究対象である粉流体の斜面流ですが、ここでは粒がたくさん集まってごつごつとぶつかりながら流れています。粒どうしの衝突の仕方についての法則性を、コンピューターによる分子動力学シミュレーションを用いて調べるという研究を行いました。

最後に研究室での活動の思い出を1つだけ書きます。毎日昼食は研究室のメンバーと一緒に学食に行き食べていました。その後研究室に戻ってから皆でコーヒーを飲みながら、研究室で購読している様々な雑誌を種に、30分ほど雑談をしていました。中西教授は非常に幅広い知識をお持ちで、この時間には研究のことのみならず、教育に関することなど様々なことを教わりました。

このような機会をいただいたことに感謝しています。この経験を糧に、もっと面白い授業ができるよう精進していきたいと思っています。



講演会

講演 「都城の歴史と都城島津邸」

都城島津邸 主幹 山下 真一

図書館では例年、学生の読書に対する啓蒙の一環として、外部講師を招いて講演会を実施している。昨年度も去る2月28日（火）、1年生を対象にして、山下真一先生（都城市教育委員会都城島津邸 主幹）による講演会を開催した。演題は「都城の歴史と都城島津邸」というもの。

本校の校歌の2番が「遠き歴史を伝えたる、古き都に新しき工学の道究めんと……」という歌詞で始まっているのは周知の通り。しかし、私は都城市に住んで既に16年になるけれど、実際に都城の歴史について知っているかという、その知識は極めて断片的で、かつ漠然としたものにすぎない。本校の学生総数の3分の1は寮生で占められているが、当然彼等の実家は都城市外にある。従って、かかる傾向は彼らのような若い学生においてはなおさらのことである。禅語に「照顧脚下」という言葉がある。足もとをよく見よという



意味である。ひとたび国際場裡に目を転ざると、日本人の過去の歴史に対する理解ということが常に槍玉にあがる。（例えば第2次世界大戦中の日本人の所業に対する中国・韓国の国民感情の齟齬の根底には、両者の歴史に対する理解の乖離という問題が横たわっている）。ともあれ、私達の生活の基盤である都城の歴史すら知らないで、歴史観もへったくれもなかったものではない。





周知のように、都城島津邸が都城市の所有に帰し、平成22年3月に開館した。このことは私達が改めて都城の歴史を知る絶好の機会である。講師の山下先生は平成16年3月、九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程を修了された、国史の専門家。『都城の世界・「島津」の世界』という著書、その他論文があって、都城の歴史について講演していただくのに最適の人といえる。

講演は都城が宮崎県という現代の行政的枠組み、また江戸時代の薩摩藩という枠組みにおさまらない独特の歴史をもっていることの指摘から始められた。そして、このことをひも解くカギの1つが「島津」と深くかかわるその歴史にあるという。都城市には古代に「島津」という地名があった。ここを拠点に太宰府の役人平季基が荘園「島津荘」を開いたこと。さらに鎌倉時代に島津荘の地頭として島津本家が誕生したこと。そして、南北時代に都城と深いかかわりをもつ都城島津家が誕生したこと。このように都城は「島津」と深く永いかかわりをもっており、その歴史が現在の都城のイメージ・特徴を形成している。それを「島津」をキー・ワードに探るとというのが、山下先生の講演の概略であった。

このように、講演の内容は遙か平安の都城が島津と呼ばれた時代から、明治初期の都城県誕生に至るまでの悠久な歴史、起伏に富んだ多岐にわたるものであるから、私のような門外漢には到底委曲を尽くすことはできない。なお、先に紹介した山下先生の著書は、本校の図書館に収蔵しているので、就いて見られたい。深い学殖に裏打ちされた専門家の話というのは、含蓄に富んでいて興味已み難いものがある。今回の講演を機縁として、若い学生たちが都城の歴史、延いては歴史というものに興味を持つ端緒となることを願って已まない。

(文責・望月)



図書委員長になっての抱負

5年機械工学科 浅野 大樹

昨年度に引き続き、今年度も図書委員長をさせていただくことになりました。

昨年は、計画が上手くいかず、あまり大きな活動を行えないまま終わってしまいました。今年度は、その反省を生かしつつ、歴代の図書委員長に恥じないような活動を行えるように一生懸命努力をする所存です。そして、本校の図書館が、学生・地域の方々にとって利用しやすい、また、利用したくなるような図書館となることを目指し、図書委員長として精一杯、行動していこうと思います。

4年物質工学科 宮川 麻有

私は図書副委員長として、「1回でも多くの本を本校の学生に手に取ってもらおう」という活動目標を掲げたいと思います。

私は個人的には、本は最初の1ページから最後の1ページまでじっくりと読まなくてもよいと思っています。内容の6割を理解することができれば、ひとまずそれでよいでしょう。だから、気になるタイトル・挿し絵・文章の本があれば、是非手に取ってみてください。その本が自分にとって良い本であれば、繰り返し読まずにはいられないはずです。読書にはそういう魅力があります。

以下に本年度の活動目標を提示します。

- ★ 定期的（たとえば月に1回）に、同一作者の作品紹介や時期にあった本の紹介。
- ★ 図書館の蔵書を学生の要望に則したものにするため、「図書リクエスト」をクラスに配付する。

平成24年度学生図書委員

図書委員長：浅野 大樹（5学年・機械工学科）

図書副委員長：宮川 麻有（4学年・物質工学科）



| 学年 \ 学科 | 機械工学科 | 電子情報工学科 | 物質工学科 | 建築学科 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1学年 | 清 武 大 晃 | 宮 崎 愛美麗 | 稲 丸 千 紘 | 中 川 志 穂 |
| 2学年 | 郡 勇 人 | 仲 澤 知 剛 | 花 田 隆 文 | 伊 藤 遥 |
| 3学年 | 山 中 康 成 | 榎 田 宗 丈 | 岩 切 聡 志 | 桐 野 莉可子 |
| 4学年 | 坂 元 宏 亘 | 内 村 友 海 | 宮 川 麻 有 | 久 徳 晃 丈 |
| 5学年 | 浅 野 大 樹 | 山 口 幸 輝 | 寺 田 拓 真 | 長谷川 孝 光 |

平成24年度図書館カレンダー

○は休館日です

平成24年 4月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| ① | ② | ③ | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ⑧ | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| ⑮ | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| ⑳ | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| ㉑ | ㉒ | | | | | |

平成24年 5月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| ⑥ | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| ⑬ | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | ⑱ |
| ⑳ | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| ㉑ | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

平成24年 6月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | ① | 2 |
| ③ | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | ⑮ |
| ⑰ | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| ㉒ | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

平成24年 7月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| ① | ② | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ⑧ | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| ⑮ | ⑮ | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| ⑳ | 23 | 24 | 25 | 26 | ㉑ | 28 |
| ㉒ | 30 | 31 | | | | |

平成24年 8月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| | | | ① | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ | 6 | 7 | 8 | 9 | ⑩ | ⑪ |
| ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | 16 | 17 | 18 |
| ⑰ | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| ㉒ | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

平成24年 9月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| ② | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| ⑨ | ⑩ | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | ⑰ | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| ㉒/㉓ | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | ㉑ |

平成24年 10月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| | ① | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑦ | ⑧ | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| ⑭ | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| ㉒ | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| ㉑ | 29 | 30 | 31 | | | |

平成24年 11月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| | | | | ① | 2 | ③ |
| ④ | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| ⑪ | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| ⑰ | 19 | 20 | 21 | 22 | ㉑ | 24 |
| ㉒ | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

平成24年 12月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| ⑨ | ⑩ | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| ⑰ | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| ㉒/㉓ | ㉒/㉓ | 25 | 26 | 27 | ㉑ | ㉒ |

平成25年 1月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| ⑥ | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| ⑬ | ⑭ | 15 | 16 | ⑰ | ⑱ | 19 |
| ⑳ | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| ㉑ | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

平成25年 2月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | ① | 2 |
| ③ | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| ⑩ | ⑪ | 12 | 13 | 14 | ⑮ | ⑮ |
| ⑰ | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | |

平成25年 3月予定

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|
| | | | | | 1 | ② |
| ③ | ④ | 5 | 6 | 7 | 8 | ⑨ |
| ⑩ | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | ⑮ |
| ⑰ | 18 | 19 | ⑳ | 21 | 22 | ㉑ |
| ㉒/㉓ | ㉒/㉓ | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

雑草

北川冬彦

雑草が

あたりかまわず

伸びほうだいに伸びている。

このけしきは胸のすく思いだ、

人に踏まれたりしていたのが

いつのまにか

人のひざを没するほどに伸びている。

ところによっては

人の姿さえ見失うほど

深いところがある。

このけしきは胸のすく思いだ、

伸びはびこれるときは

どしどし伸びひろがるがいい。

そして見ばえはしなくとも

豊かな花をどっさり咲かせることだ。

「実験室」より

新入生オリエンテーション実施

図書館では4月から6月にかけて、1年の担任の先生のご協力を得て、特活の時間を使って「新入生オリエンテーション」を開催しました。

初めに望月図書館長から、学生生活における読書の意義及び図書館利用の重要性について講話がありました。

次に、図書係から図書の検索方法について、パソコンとプロジェクターを使って、スクリーン上で説明をしました。また、「貸出・返却の手順」について、「図書館利用案内」を基に説明と、図書館内の各閲覧室及び書庫等の案内をしました。最後に、実際に好きな図書館内の本を選んでもらい、体験貸出を実施して、オリエンテーションを終わりました。



図書館からのお知らせ

夏季休業期間中の長期貸出について

通常10日間の貸出期間を、夏季休業期間中は特別に長期貸出としますので、ご利用ください。

帯出冊数 7冊以内

貸出開始 7月3日(火)

返却日 9月3日(月)

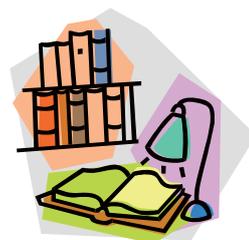
夏季休業期間中の開館について

夏季休業期間中の開館時間及び休館日は次のとおりです。

開館時間 平日 9時～20時(8月2日～31日は17時まで)

土曜日 9時～17時

休館日 毎週日曜日、7月2日、16日、27日、8月1日、10日、11日、13日、14日、15日



編/集/後/記

今回の図書館だよりには、4月に本校に着任されました2人の先生方から寄稿していただきました。それぞれに読書の思い出や楽しみ方等を語っていただきました。最後にお薦めの本を推薦していただきました。皆さんも今回の寄稿文に刺激を受け、図書館の利用が増えることを期待しております。また、昨年度に内地留学をされた2人の先生方に、内地留学の体験談を語っていただきました。

本年3月に退職された剣田先生には、在外研究員として滞在したノルウェーでの研究生活の思い出を記していただきました。また、それは本校の学生諸君へのエールでもあります。

発行に際しご多忙の中、ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。